

令和4年第30回定例公安委員会会議録

開催日時 令和4年10月20日（木）午後0時20分～午後3時15分

開催場所 警察本部各執務室、西部地区運転免許センター聴聞室（リモート）

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時10分

2 出席者

公安委員会 久本委員長 衣笠委員 勝部委員

警察本部 半田警察本部長 雲田警務部長 笠田首席監察官
前田生活安全部長 河本刑事部長 柴田交通部長
加藤警備部長 植木警察学校長 見垣情報通信部長
前田警務部参事官
(事務局等～畔田公安委員会補佐室長、辻室長補佐)

3 議題事項

警察職員の援助要求（警備部）

警察本部

福井県公安委員会から、福井県内の原子力関連施設の警戒警備に伴う特別派遣のため、援助要求があった。

委員

このとおり決裁する。

長期間の派遣であることから、体調管理をしっかりと行い、任務を遂行していただきたい。

4 報告事項

○犯罪被害者等支援の連携協力に関する協定締結式の開催（警務部）

○職務倫理検討会の実施（警務部）

○大会出場関係報告（警務部）

○第54回鳥取県交通安全県民大会の開催（交通部）

（1）犯罪被害者等支援の連携協力に関する協定締結式の開催（警務部）

警察本部

犯罪被害者等支援の連携協力に関する協定は、犯罪により被害を受けた方やその御家族又は御遺族といった犯罪被害者等が、犯罪により受けた被害の早期回復及び軽減を図り、誰もが安全で安心して暮らせる市民生活を実現するため、鳥取市と県警察が連携、協力し、犯罪被害者等を支援していくものである。このような協定を締結するのは、県内で初めてである。協定締結式は、令和4年10月21日、警察本部で開催する。出席者は、鳥取市が、鳥取市長及び鳥取市総務部人権政策局長、警察本部が警察本部長、警務部長及び広報県民課長である。来賓は、公益社団法人とっとり被害者支援センター理事長、犯罪被害者自助グループ「なごみの会」の代表者である。協定締結式では、出席者及び来賓紹介などを行った後、警察本部長及び鳥取市長による協定書への署名が行われる。

委員

これは、犯罪被害者等支援において、大変素晴らしい取組だと思う。

委員

この取組を県民に広く知っていただくことが大切である。しっかり広報していただきたい。

委員

今回の取組が、県内の各自治体へ広がってほしいと思う。

（2）職務倫理検討会の実施（警務部）

警察本部

職務倫理教養を充実させ、職員一人一人の倫理観、使命感及び責任感を高め、県民の期待と信頼にこたえる強い警察を確立するための取組の一環として、全所属において、警察職員としての適正な在り方を自ら考えさせる、職務倫理検討会を実施する。

検討会は、各所属ごとに職員を適宜グループ分けした上で、検討課題について討議する小集団討論形式で実施する。この検討会の実施結果を各所属へ還元し、一層の倫理意識の浸透を図り、教養効果を高めたいと考えている。

委員

職員一人一人の倫理観、使命感及び責任感を高めるということだが、倫理観は、どの組織にとっても特に大切なことだと思う。

警察職員が問題を起こせば、県民は不安を感じる。

このような取組を通して、倫理観を高めていただきたい。

委員

小集団討論形式ということなので、若い警察職員の考え方もわかると思う。高い倫理観を持って職務が行えるよう、工夫しながら、検討会を行っていただきたい。

委員

警察職員は、一般の方よりも高い倫理観、使命感及び責任感が求められるので、こういった取組を通じて、県民の期待と信頼にこたえる強い警察官を育成していただきたい。

(3) 大会出場関係報告（警務部）

警察本部

本年10月11日から12日までの間、警視庁術科センターにおいて、令和4年度全国警察柔道・剣道大会が開催された。大会は、団体戦で構成され、剣道特練員及び柔道特練員が出場した。結果は、剣道では団体戦男子が予選リーグ敗退、団体戦女子が2回戦敗退、柔道では団体戦男子が予選リーグ敗退であった。

また、本年10月1日から11日までの間、栃木県において、第77回国民体育大会が開催され、競技には県警察から7人が派遣された。

委員

規模の小さな県警察ではあるが、大会では善戦していると思う。日頃の業務の合間にしっかり鍛錬した結果だと思う。

こういった選手がいることも県警察の魅力の一つになると思うので、引き続き頑張っていたいただきたい。

委員

練習時間がなかなか確保できない中で、頑張っていたいただいている。

出場した選手を、しっかり激励していただきたい。

委員

公安委員としても、大会出場者に直接会って激励したいと思う。

(4) 第54回鳥取県交通安全県民大会の開催（交通部）

警察本部

本年10月25日午後1時30分から、鳥取県立県民文化会館において、第54回鳥取県交通安全県民大会が開催される。

この大会は、県下の交通安全功労者及び優良運転者の表彰を行うとともに、交通安全に関する講演等を行うことにより、県民の交通安全意識の更なる高揚を図り、交通事故を防止することを目的として、鳥取県交通対策協議会が主催するものである。参加者は、約200人を予定している。

例年は、広く県民へ参加の呼び掛けを行っているが、本年は、新型コロナウイルス感染症対策により、参加者は、表彰受賞者、交通安全機関・団体等に限定されている。

大会では、交通安全功労者3人への表彰のほか、保育園園児による交通安全メッセージ、落語家雷門喜助氏による講演、警察音楽隊による演奏が予定されている。

委員

様々な取組を行いながら、県民の交通安全意識を盛り上げていく必要があると思う。こうした取組を地道に行った結果、鳥取県は17年連続事故件数が減少している。

委員

ボランティアの方々にとって、表彰を受けることは社会に役立っているという喜びにつながる。

委員

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を減らしているが、この大会についても広く県民に広報していただきたい。

5 その他

○はわいIC通行方法の変更後の状況（交通部）

○第52回全国白バイ安全運転大会結果について（交通部）

(1) はわいIC通行方法の変更後の状況（交通部）

警察本部

令和4年9月29日、国土交通省倉吉河川国道事務所の道路工事により、はわ

い I C の通行方法が変更となった。

変更後は、約 400メートル程度の渋滞が数回発生したが、そのほかに目立った渋滞や交通事故の発生はなかった。

変更初日、東向き交差点手前の右折レーンに右折車両が連なり後続の直進車両の渋滞が見られたことから、道路管理者に同レーンのバリケードの位置変更を依頼したところ、渋滞は緩和した。

引き続き、道路管理者と連携して、交通事故防止、渋滞緩和に努めていく。

委員

渋滞や事故の発生はなく、しっかりと対応していただいているので安心した。

(2) 第52回全国白バイ安全運転競技大会結果について (交通部)

警察本部

第52回全国白バイ安全運転競技大会が、令和4年10月8日から10日までの3日間、茨城県ひたちなか市内自動車安全運転センター安全運転中央研修所において開催され、当県から2人の選手が参加した。

成績は、団体第2部で、36道府県中17位であった。

委員

白バイの運転は、高い技術が求められる。

今回の大会を励みに、運転技術の更なる向上に努めていただきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取3件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 事前説明

警察職員の援助要求

3 報告事項

- ・全国公安委員会連絡会議関係
- ・公用車交通事故の発生状況

- ・ 監察報告
- ・ 境港港湾危機管理テロ対策訓練の実施

4 決裁

- ・ 開示請求に係る審査請求の審議会への諮問
- ・ 指定自動車教習所関係
- ・ 警察職員の援助要求

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。